

まちを、人を想いたくなる情報誌

広報湯前

Public
Relations

Since 1962.

[//www.town.yunomae.lg.jp/](http://www.town.yunomae.lg.jp/)



熊本県南豪雨リポート

明日へ
つなぐために。

8

The Monthly
Aug_2020
Vol.470

熊本県南豪雨リポート
明日へつなぐために。

愛する自然は 突如として 牙をむいた。



山腹の崩壊で土砂と流木が発生。中央の橋の崩壊から伝わる水の恐怖

透き通った水。
豊かな緑。
いやしの場であり、
遊び場でもある。
内外から愛されてきた
自然は突如として
牙をむいた。

7月3日午後11時55分。こ
とし初の土砂災害警戒情報が
本町に発令された。息が苦し
くなるほどのすさまじさ。明
け方に向かうほど雨の勢いは
増していく。午前3時20分、芦
北町に発表された記録的短時
間大雨情報を皮切りに県南部
の雨量は1時間で110（
120）以上に。気象庁は午
前4時50分に球磨地方、天草・
芦北地方、宇城八代に県内初
の大雨特別警戒を発表した。
本町は溝や川のはん濫です
でに災害が発生している状態
だったため、警戒レベルを最
高の5へ引き上げ。同時に6
地区355世帯917人に避
難指示を発令した。自宅に水
が入ってきた「土砂崩れで道

が通れない」。薄暗い空が見
え始めたころ災害対策本部
の役場には電話が殺到。午前
7時45分に避難指示を2地
区追加し総数は476世帯
1219人に。避難所の保健
センターや改善センターには
最大102人が身を寄せた。

観測史上最大

大雨特別警戒は数十年に一
度の大雨が降り、重大な危険
が差し迫ったときに気象庁が
最大級の警戒を呼びかけるも
の。集中豪雨の原因は「線状降
水帯」。停滞した梅雨前線に向
かって南から湿った暖かい空
気が流れ込むことで雨雲が前
線に沿って帯状に連なる。大
雨を降らせる積乱雲一つの寿
命は1時間ほど。だが連続し
て発生することで同じ場所に
雨を降らせた。3年前の九州
北部豪雨、2年前の西日本豪
雨も同降水帯によるものだ。
3日夜からの24時間雨量は
本町横谷で489.5ミリ。ほか
6地点で観測史上1位を記録
した。

被害甚大

本町は人的被害こそなかつ
たが、住宅の一部損壊や床上、
床下浸水など40世帯93人が
被害を受けた。6つの集落で
は二日間孤立状態が発生。道
路や川、山林、農業の被害も
164件と大きく膨らみ、光
回線の本復旧もめどがたつて
いない（7月21日時点）。

今回の豪雨ではん濫が相次
いだ球磨川は水害を繰り返す
「あばれ川」として知られてき
た。球磨川流域では水が堤防

を越えて決壊するなどした結
果、市街地や農地など広範囲
に水が浸かり、下流域の人吉
市や球磨村を中心に甚大な被
害をもたらした。国道219
号、3号をはじめ、各地で道路
が寸断。球磨川にかかる橋も
軽々と流されてしまった。

人吉〜湯前間を走るくま川
鉄道も被害を受けて長期間の
運休を余儀なくされた。死者
数は県内だけで60人超。私た
ちの地域に大きな爪痕を残す
歴史的大災害となった。

対策本部の動き(7/3～4)※抜粋

7/3	
23:55	土砂災害警戒情報(警戒レベル4相当)
7/4	
0:25	第1回災害警戒本部会議(同日5回)
0:45	避難勧告 6地区(355世帯917人) 避難所開設 保健センターなど2カ所
2:42	消防団出動要請
4:50	大雨特別警戒
5:15	警戒レベルを5へ引き上げ 避難指示 6地区(355世帯917人) 避難勧告 その他(1104世帯2541人) 避難所増設 改善センター
7:45	避難指示 8地区(476世帯1219人)
11:50	大雨特別警戒が警戒に切り替わる
13:00	被害調査開始

町の主な被害状況(7/21 現在)

項目	被害状況
避難状況	延べ95世帯171人 一部損壊 1世帯5人
住家被害	床上浸水 1世帯5人 床下浸水 38世帯83人
孤立集落	6集落 7/4～5解消
道路被害	31件
河川被害	18件
山林被害	20件
農業被害	95件
電話障害	7/7 復旧
町光回線	7/10 仮復旧



1/国土交通省との対策会議 2/ホワイトボードに書ききれないほどの情報が飛び交う本部 3/避難所ではコロナ対策 4/潮大橋下で土のうを作成



1



2
3



4



5



「ため息しか出ない。だれが悪いわけでもないのだけれど...」。竹下建具製作所の竹下裕一さん(53)上里(1)は、やるせなくつぶやく。午前8時過ぎに道路の側溝からあふれた水は無情にも工場に流れ込んだ。入り口に木の板を置いても足首まで水が浸かり、木の床はベコベコに。床と接していた木材は使い物にならなくなった。工場となりの自宅は難を逃れたが裏溝のはん濫で側面のコンクリートも40cmほど倒れた。「50年間生きてきて初めて。台風でもこんなことにはならなかったのに。3日経っても仕事にならない」と天を仰いだ。

上村の実家で畜産業を営む石井崇雄さん(35)上里(1)。大谷川と溝からあふれた水が実家の敷地に流れ込み、玄関まで水が押し寄せた。「外はひざまで水が来ていた。玄関が浸かる前に子どもたちと一緒に避難所へ行くことを決めた。急に水かさが増



10

増えてきたのでびっくりした」。倉庫の農機具に故障はなく、牛舎もぎりぎり助かったが、田んぼにはごみが流れ込こみ、土手は崩れていた。「これから飼料稲を植えないといけないが、どうしたものか。それでも他の地域と比べれば、これぐらいで済んでよかった」。不幸中の幸いだと自分に言い聞かせた。

福寿荘の料理長を務める松原薫さん(52)浜川(1)は午前5時に家を出るとき、雨の降り方がいつもと違うことを感じていた。自宅の裏山が崩れたことを耳にし、見に行くと倉庫などが流木で押し崩され、自宅屋根にも木がかかっていた。「いろいろな想像したが、実際に見たとき、これぐらいで済んでよかった。玄関側の瓦が崩れて多少の雨漏りはあるけれど、家族が無事で電気もつながっているし、水道も使える。むしろ福寿荘が停電していたことの方が心配だった。利用者のご飯は大事だから」。松原さんは前向きにとらえる。

- 1 / 一步違えば民家を直撃
- 2 / 泥だらけのキッチン
- 3 / 土砂で埋もれた標識
- 4 / 流木が倉庫を潰し民家にも迫る
- 5 / 勢いを物語る水の痕跡
- 6 / 容量を超える雨量で道路は冠水
- 7 / 土砂で埋もれた倉庫
- 8 / 田んぼはまるで湖。水が家屋にも流れ込む
- 9 / 倒木で通行不可
- 10 / ショベルカーをなぎ倒す威力

対岸のことでは なかつた



6



9



7

避難は最大の防災なり

大きな被害をもたらした未曾有の豪雨。災害を事実だけで終わらせない。次に起こる想定外を乗り越えるために。私たちがすべきこととは――

人の力ではどうしようもない

本町が初めて発令した避難指示。避難勧告や避難指示を出すときの警戒レベルは通常4相当。だが今回は一段階引き上げた。それだけ危険な状態だったからだ。総務課で防災を担当する荒木龍二主幹は「人口規模でみれば避難した人の数は少なくなかった。しかし『避難指示』は重大な危険がそこまで

迫っている状況。もっと多くの人に危機を感じてもらいたいという思いがある」と振り返りながら住民に気を配る。「こんなに被害が出るとは思っていなかった。だけど降り方がいつもと違うことは分かっていた」と多くの住民が同じように口を開く。その理由は人間の特性にある。自分にとって都合の悪い情報を無視したり、非常時でも根拠なく大丈夫だと判断し、平時と同じ

ような行動を選んだりする「正常性バイアス」という心理が原因。荒木主幹は「自らの考えだけでなく私たちが発令する避難情報を客観的な判断材料にしてほしい。土砂崩れや川のはん濫は起きてしまったら人の力ではどうすることもできない。だからこそ避難が最大の防災になる」と避難の重要性を語る。

「行政にできるのは住民が避難できる場所を確保すること、そして避難情報を伝えること。もし逃げ遅れた人がいれば、助けに行く人も命の危険にさらしてしまう。自分を守ることで他人が守られることをどうか心に留めておいてほしい」。尊い命を一つでもなくさないために、主幹は念を押す。



76人31世帯が避難した改善センター。どこに行けば安全なのかを考えて避難を

て判断することが大事。家族のことなど自分の守るものを思い浮かべると早めの行動をとろうという気持ちが強くなる」。早めの判断は命を救うカギだ。

土のうは梅雨入り前に『自分』で

水害時には消防団の力が欠かせない。今回、ほぼすべての団員が出動し避難の補助や呼びかけ、危険な場所の立ち入り封鎖などを夜通しで遂行した。町内に置いた土のう約4200個もほとんどが団員と役場職員が作ったものだ。公的な機関は命の危険が差し迫った場所から順に対応する。「役場や消防団を最大限に活用しても豪雨災害のすべてには対応しきれなかった」と主幹が話すように「敷地内に水が入ってきたからどうにかしてほしい」と連絡を入れても、いつ手が回るかは分からない。水路沿いに住む人などは梅雨入り

特に夜は視覚的な情報が入らず状況がつかみにくい。土砂崩れが発生する前には土臭さがあるとも言われるが、そのとき冷静にかぎ分けられる状態で見られるとは限らない。土砂災害警戒情報は数時間後に地域で土砂崩れが起きる可能性を予想して発令されるもの。山間部、水路沿いに住んでいる人は発令された時点で避難することをおすすめする。「毎年のように観測記録を更新する雨が降っていて、これまでの経験はまったく通用しない。臆病になっ

前に自分で土のうを作っておくことや普段からすぐに動かせる向きに車を止めること、雨具など必要なものを事前に備えておくことが必要だ。避難は安全な場所に行くことが第一。雨での避難は他の災害と比べて短い時間で済むことが多い。新型コロナウイルス感染予防の観点から避難所の駐車場などでの車中泊も選択肢に入れない。LEDライトや目隠しになるタオル、小さく収納できるマットレスもあると良い。段差をなくすための工夫があれば横になったときに快適だ。長時間じっとして急に立ち上がったときに発生しやすい「エコノミークラス症候群」を避けるためにも水分補給や適度に足を動かすことを忘れずに。冠水した道路も多数あるため避難経路も改めて確認してほしい。

自分を守れば他人が守られる

「行政にできるのは住民が避難できる場所を確保すること、そして避難情報を伝えること。もし逃げ遅れた人がいれば、助けに行く人も命の危険にさらしてしまう。自分を守ることで他人が守られることをどうか心に留めておいてほしい」。尊い命を一つでもなくさないために、主幹は念を押す。

町民の声



区長会長 柳瀬 鐵男さん (77=瀬戸口)

普段から地域と人を知っておく

午前6時から自主防災組織の班長と地区を見回りました。支援が必要な人の家を優先的に回り「何かあったら連絡してください」と声をかけていきました。現場の混乱を避けるため、避難するときは必ず連絡を入れてもらうように伝えていきます。水の怖さを目の当たりにしたのは今回が初めて。今まで湯前は大きな災害が少なかった分、住民にも油断がありました。道具だけでなく、大事な人は人。普段から近所の人の様子や山からの水の流れ方などを見たり、地域をよく知る高齢者から地形や溝の位置を聞いたり、普段から人と地域を知ることが大切だと思います。地元の消防団員が土のうを各家庭に置くなど率先して動いてくれたおかげで被害が抑えられました。感謝しかありません。

地域の人を助けたい一心で

午前5時に自宅近くの都川の水位が橋まであと1メートルでした。川向かいの道は冠水し、近くの家の車庫にも浸水していたので、避難するように呼びかけました。その後、上染田全世帯に避難指示が出たので団員二人で全戸を回り、他の団員は2分団管轄地区の状況を見て土のうを置きました。午後からは個人宅の泥のかき出しやごみの処分をしました。「ありがとう、ごめんね」という言葉をかけてもらいました。次の日は今後に備えて土のうをつくりました。動いている間は必死で考える余裕はなかったのですが、休憩中は自宅がどうなるのか不安もありました。一人暮らしの私は家が被災しても自分の命を守ればいいので、自宅をどうにかすることよりも地域の人たちを助けたいという気持ちで動きました。

VOICE



消防団員 瀬谷 憲功さん (31=上染田)



総務課防災担当 荒木 龍二 (46=野中田3)

どんな困難があっても、一人じゃない。仲間がいるだけで立ち上がる力が沸く。私たちが一つになるときは今――

「大変な人たちの分まで」
背中押された10日間

被害の大きかった人吉市西瀬橋周辺。以前勤めていた会社の後輩の被災を気にかけていたのは、湯田板金店(上里2)に勤める木村和徳さん。「行ってこい」。湯田賢一社長は会社の軽トラックや工具を貸し出して背中を押した。7月6日から現地へ向かい、10日間、泥のかき出しやごみ処理を手伝った。

「一階がすべて浸かり、見るに堪えない状況だった。後輩は笑顔もなかった」。下水も流れ込んでいて、作業した手は汚れているが洗おうにも水がない。そのまま昼食をとるしかなく、体調を崩した。「後輩はスポーツパレスで車中泊をしている。水音を聞くのも嫌で風呂に入れないらしい。朝から夜まで食事をとろうともしなかった。精神的に追い込まれていたのだろう」と期間

復興を引き続き支援する。

コロナ禍でもびぎるいい

湯前町社会福祉協議会では7月15日〜17日の3日間を活動日としてボランティアを募り、集まった町内外延べ55人が個人宅や高齢者福祉センター「湯愛」の運動場にたまった泥のかき出しなどを黙々とこなした。

「会社が湯前にあるので」と16日の午前中に参加したのはあさぎり町、多良木町在住の女性3人。運動場の溝にたまった泥をスコップでせつせと袋に詰めていた。そのうち60代の女性は「人吉市にいる知人も被災しているので何か自分にできることをしようと思った。多良木高校で行われる炊き出しに志願したが、コロナの影響で中止になってしまった。だからその代わりに少しでもできることがあれば」と手を動かしながら自身の思いをつぶやいた。

- 1 / 雨に打たれながら黙々と作業
- 2 / 一人一人の力を結集
- 3 / スコップで溝の泥をかき出す(湯愛)
- 4 / ファミリーマート湯前店は弁当やおにぎりを避難者に差し入れ
- 5 / 民間企業や個人から寄付や物資が次々と寄せられた

ボランティア参加の注意事項
人吉市への参加を例に

- 保険はお住まいの市町村で(天災・地震補償プラン…500円)
 - 申し込み 湯前町社会福祉協議会 住所 湯前町1693-37(湯愛)
 - 食事、宿泊、交通手段、作業用具や食事は自分で手配
 - 受け付けは午前9時～午前11時(7/17時点)
 - 人数は達し次第受け付け終了。状況はホームページなどで確認。
 - 募集は中学生以上(中学生…保護者同伴、高校生…保護者の同意書)
 - 物資は受け入れ先の状況を確認
 - 悪天候などで中止になることも
- フェイスブック
人吉市社協のホームページがfacebookで確認。



町内ボランティアに参加した
桑原 やよいさん
(39= 下村)

弁当やおにぎりを避難者へ提供したファミリーマート湯前店をはじめ町内外から温かな支援が届いている。今日もどこかで、誰かのために。記憶を風化させず、人と人がつながることが明日へと踏み出す勇気につながるはずだ。



人と人とのつながりが
私たちの明日をつくる。



湯田板金店
かずのり
木村 和徳さん
(42= 中里2)

- 被害が甚大なところに寄付が集まりがちだと思いますので載せて寄付額が少ない自治体への寄付とさせていただきます。コロナもあり復旧も大変かと思いますが一助になれば幸いです。
2020年7月6日(月) 9時38分
- 頑張れ湯前町!!
2020年7月6日(月) 4時54分
- 今年の秋ごろにはくま川鉄道に乗りに行けるだろうかと考えていましたので、今回の大雨災害の被害に言葉もありません。皆様の無事を祈りつつ、微力ながら応援いたします。
2020年7月5日(日) 21時04分
- 湯前町は亡くなった父の故郷です。代行をしてくださり感謝しています。
2020年7月5日(日) 20時09分
- 22年間この人吉球磨という地域で生まれ育ちました！今こそ恩返しの時。力を合わせて頑張りますよ！心より復興を願っております！！
2020年7月5日(日) 19時35分

ふるさと納税とともに本町に届いた応援メッセージ。町外にも力強い仲間がたくさんいる

中ずつと様子を気にかけていた。片付けが進むにつれ徐々に笑顔も見え始めた。「笑顔が戻ってよかったが(後輩の)これからの思うと素直に喜べない。快く送り出してくれた社長に感謝している。ボランティアは大変だったが、人のために頑張ることができた。亡くなった人もいるけれど、その人たちの分まで頑張りたい。元通りになるには長い時間がかかると感じた。地域みんなの力が必要だと思う」。湯田社長も「8月3日には熊本県の板金組合で支援に向かう。宮崎県の板金組合からも支援物資が届いているので、行き届かない場所に届けたい」と人吉球磨の

知り合いと一緒になら

「被害の大きかった人吉市でボランティアしたい」との思いを秘めていた桑原やよいさん。仕事で時間をつくれず、参加する機会を逃していたが町民からの誘いをきっかけに「まずは地元から手伝えれば」と本町でのボランティアに参加。「作業は腰が痛い、そんなことを言っではいられない。こんなに大変な作業を率先してやっている皆さんは素晴らしい」と周りを見渡す。「ボランティアしたくても、どうすればいいかわからず自分から出ていきにくい。ボランティアセンターも一人で行くのは不安。今回のように知り合いからの誘いや、知り合いと一緒にあれば参加しやすいと思う。『今こんなボランティアをやっている』という詳しい情報があれば協力したい」。桑原さんは実際の活動で感じたことを話ながら汗をぬぐった。

弁当やおにぎりを避難者へ提供したファミリーマート湯前店をはじめ町内外から温かな支援が届いている。今日もどこかで、誰かのために。記憶を風化させず、人と人がつながることが明日へと踏み出す勇気につながるはずだ。



このまちが、好きだから。

湯前町 職員採用 試験 10/18(日)

応募条件は町のホームページをご確認ください。

<https://www.town.yunomae.lg.jp/>

笑顔をもらいながら 「わが町自慢」のできる町に

町の体育行事や子どもたちに身近な自然の体験をしてもらう「海洋クラブ」の活動など、幅広い年代と接します。入庁時「元気で笑顔が多い町にすること」が目標でしたが、料理や身近なできごとを町民の皆さんから教えてもらい私が笑顔をもらっています。皆さんに「わが町自慢」をしてもらえるような町を目指します。

教育委員会 安井 佳奈

子育てと仕事の両立 職場の理解に感謝

商工振興係として商工会との連携やイベント運営などの業務を担当しています。二人の子どもを育てているので、子どもが病気になると休まなければならないこともありますが、職場のみんなが理解してくれ、子どもを心配する温かい言葉もかけてくれます。子育ても仕事も両立しながら私たちと一緒に働いてみませんか。

企画観光課 坂本 好

日々感じるやりがい 熱意に答えてくれる関係

畜産は生活に必須な「食」に関わるもの。町民のためになる業務にやりがいを感じています。役場の業務は多岐にわたりますが「町をもっとよくしたい」という熱意と明確なビジョンがあれば何でもできますし、周りも応えてくれます。魅力のある自治体は多いですが、その中で湯前町を選んでもらえたらうれしいです。

農林振興課 山野 瑛人

Register

戸籍の窓 6月1日～30日

結婚おめでとう

黒木 大地(野中田3)
野中 莉紅(鹿児島)
有山 鉄平(菊池市)
岩野 千穂(田上)

お誕生おめでとう

黒木 静玖 大地(野中田3)

ご冥福をお祈りします

木野 操(下村)
澁谷 慧(瀬戸口)
一法師 ミツエ(下城)
山本 シゲ子(下染田)
栗原 ミヤ子(上村)

香典返し

澁谷 律(瀬戸口)
山下 守雄(野中田2)
一法師 クニコ(あさぎり町)
吉村 良一(下染田)
栗原 健児(上村)
佐藤 栄一(東京都)

Baby

出生祝い金贈呈



いとか
澤田 絃香ちゃん
明日香さん(浅鹿野)

(ひとこと) 毎日娘に癒されながら初めての子育てを楽しんでいます。明るく優しい子に育てほしいです。

Health

保健師だより

災害時、見た目では分からなくても支援が必要な人がいます

発達障がいのある人のために、したいこと

発達障がいのある人は、見た目では障がいがあると分からなくても、支援が必要な場面があります。「わがままや育て方の問題」ではありません。周りの理解や思いやりが本人や家族を支えます。

【こんなことがつらく感じます】

○変化が苦手

初めての場所や予測がつかないことに強い不安を感じます。当面のスケジュールや空いた時間に過ごす活動など、分かる範囲で見通しを伝えてください。

○避難所生活になじめないことも

大勢の中では混乱することがあります。部屋の角や別室、段ボールで仕切りをつくるなど居場所の配慮があると安心できます。

○感覚の過敏さや鈍感さがあります。

苦手な音が大きく聞こえたり、光がまぶしく感じたりする人はイヤーマフや眼鏡など道具を使うと過ごしやすくなることがあります。けがしても平気であることもあります。大きな傷がないかなど体の様子を確認してください。

○コミュニケーションが苦手

話し言葉の聞き取りや、困っていることを伝えられないことがあります。実物を見せて質問したり、コミュニケーションボードを活用します。
※人によって苦手なことは違います。家族や本人の状態をよく分かっている人にかかわり方を確認してください。



【ポイント】

①なるべく、否定語は使わず指示や予定は具体的に

×「走らない」→○「歩こうね」

×「そっちに行ってはダメ」→○「こっこのシートに座ってください」

②大声での注意は逆効果

③一斉に伝えただけでは理解できないことも。個別の声かけやメモ、掲示を活用(見て分かる工夫が必要)

保健センターにもっと詳しく書かれた資料がありますので(「ご家族向け」「地域の皆様へ」「支援について」など)保健師へお気軽にご相談ください。

保健師 野々原 亜紀

Dietary habits

管理栄養士だより

エコバッグでも食中毒予防 賢く楽しくお買い物しましょう

7月からプラスチック製のレジ袋が有料になり、エコバッグを使う機会が多くなりました。目につく汚れや臭いがなくても、気づかないうちに肉や魚の汁、野菜の土がバッグに付いていることがあります。

そのまま使い続けると、食中毒菌が増殖し、新たに購入した食品に菌が付いてしまいます。エコバッグを清潔に使い、賢く楽しくお買い物をしましょう。

Check

日ごろから気を付けたいポイント

- エコバッグは定期的に洗う
- 肉、魚、野菜はポリ袋に入れる
- 肉、魚、冷蔵・冷凍食品などの冷たい物はまとめて温かいものと密着しないように入れる
- 食品と日用品を入れるエコバッグを区別する
- 食品を入れたエコバッグの持ち運びは短時間にする



管理栄養士 田中 朋子

Ecolog

豪雨で発生した「災害ごみ」

7/15～19 仮置き場を設置

災害ごみ(災害廃棄物)・・・

災害で発生した廃棄物。自治体で責任をもって処理をします。今回の豪雨を受け、町でも7月15～19日まで災害ごみ仮置き場を設置しました。今後も生活再建に向けて取り組みますのでご協力をお願いします。



受け付けを済ませて搬入。木くずや家電製品などが運ばれました

通常のごみ出しのお願い

○墓参りで出たごみは必ず持ち帰ってください。

○町外のごみは回収できません。被災地などを片付けて出たごみは、各地域のごみ出しルールを守って出してください。

捨て方が分かる「ごみ分別アプリ」

ダウンロードはこちらから→



android



iPhone

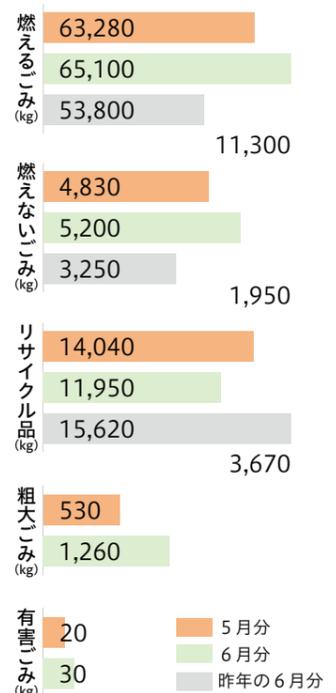
8月の不燃物収集	5日	(第1水曜)
	19日	(第3水曜)

6月の一人当たりのごみの量は・・・

19.55kg

(先月から2.42kg↓)

※リサイクル品を除く





寄り添う気持ちが地域の明日を開くことを願います

協力隊ジャーナル 他人に 寄り添う気持ち

今回の大雨による災害では、当日早朝から冠水。道路や住宅に流れこむ水をせき止める作業に人手も足りず大変でした。夕方に人吉市にも足を運びましたが被害の大きさに驚きしかありませんでした。

復興作業で何度も向かいましたが常々思うのは人手が足りないということ。ボランティアも平日は少数、被害が広範囲であるため消防や自衛隊も人員を割く余裕がありません。写真だけを撮りに来る野次馬、車で埋まっているパチンコ店。悶々とするこぼかりでしたが、それでも義援金を集める人や被災地で毎日耐えている人、職員の姿を見ると心も晴れました。

人に元気を与えられるような人々のように、自分もできることに目を向けていこうと思う椎葉でした。

ゆるっと近況報告



筋トレの成果を発揮

被災した身内宅の清掃は通路が狭く、一人作業が多かったので力作業が増加。筋トレをのんびりともやっていた良かったと実感しました。

もともと体重は50kg台で腰やひざも壊しやすく、細身でしたが今は80kg台まですくすくと成長。ひざや腰のヘルニアもおかげでかなり良くなりました。いざという時のためにこれからも励みます（精神的な成長も頑張ります）。



地域おこし協力隊 椎葉 賢也

▼「いつも通り終わる」と思っていました。いつまで経っても消えない雨雲に歯がゆさを感じながら、本部事務を遂行。明け方、被害の状況が判明して管内で起こった悲劇に心が痛みました。思い出したのは「天は自ら助くる者を助く」という高校野球部時代の合言葉。危険な状況では救いの手が差し伸べられないことだっでありました。最後に自分の命を救うのは、普段からの備えや空振りをおそれない早めの判断だと痛感しました。（宏）

▼7月の豪雨で学生時代を過ごした人吉市が大きな被害を受けました。母校近くの橋は流され、友人の家もほぼ全て被災しました。現地に行き初めて分かる被害もたくさんありました。被災者の気持ちに簡単に寄り添うことができないう今、自分にできることは何か。人を支えるということがどれほど難しいことが痛感しています。（岩）

編集後記

Community 婦人会だより

地域婦人会長
橋田 實子



ことしの梅雨は当初から猛威をふるい、すさまじい勢いで各地に大きな爪痕を残しました。被害に遭われた皆さんに心からお見舞い申し上げます。新型コロナウイルスの終息もいまだに見い出せず、婦人会としての大きな活動もままなりません。しかし、私たちは日赤奉仕団の一員であり、声がかかれば対応できる準備をしておきたいと思います。

【これから】 9月の敬老会を中止します

楽しみにしてくれていた人もいらっしゃるかと思いますが、コロナ禍で三密を避けることは困難であり、やむを得ず本年度は中止します。どうぞご理解ください。

【行事】

6月4日(木) 小学校交通安全教室

雨の中でしたが新年度初の行事で9人の会員にお手伝いいただき、体育館で開催しました。



安全な歩道の渡り方を指導

「受信設定」お忘れなく 町公式LINE

総務課情報統計係



町が発信する情報をすぐにスマートフォンで確認できる公式のLINEがあります。メニュー画面の右下「受信設定」ボタンから受信したい項目にチェックを入れなければ情報が送られてきませんので、ご確認ください。



■登録方法

- ①右のQRコードを読み取る
- ②LINEで「湯前町」か「@yunomae」と検索する

Books

読書のススメ

中央公民館図書室 ☎0966(43)2050
2週間/一人5冊まで 平日 AM8:30～
PM5:00 土日・祭 AM9:30～同

5分後に 意外な結末 ex 白銀の世界に 消えゆく記憶

桃戸 ハル (著)
学研プラス

最強&最驚のショートショート集。涙、笑い、恐怖の読み切り35本。「だまされる快感」にはまる読者が続出。



神様が味方する 奇跡のお掃除術

嶋田美幸 (著)
今日の話題社

試しにやったら、スゴかった。「家神様」のパワーが大復活。簡単なことから始められて、パワフル。人生を変えるお掃除、やってみませんか？



本当の 「頭のよさ」って なんだろう？

齋藤 孝 (著)
誠文堂新光社

「頭がいい」とは脳の「状態」のこと。頭のはたらかしい状態のときは、目の前の問題が簡単に解決できるし、未来を楽しく創り出していくことができる。すっきりと気分もいい。



型紙いらずの 着物リメイク・ パンツ&スカート

松下純子 (著)
河出書房新社

ほどく→折る→直線縫い=簡単にリフォーム。気になるウエストやおしりまわりをカバーしつつ、下半身がすっきり見えるデザインのパンツとスカートを紹介。



MonthlyTopics

七夕飾り、再び見られる日を願う――



色鮮やか七夕飾りを駅舎に取り付ける会員

6月26日、湯前町商工会女性部(平井豊美部長 30人)の役員ら5人は観光の玄関口である湯前駅の駅舎を彩ろうと七夕飾りを準備しましたが、豪雨の影響で駅舎が閉じられ、飾りを見ることができなくなりました。

駅前をにぎやかにしようと8年前からボランティアで飾りつけを開始。乗客らが自由に願いごとを書ける短冊を置き、会員が自宅で作成した布飾りや3300羽の折り鶴などが7月末まで観覧できる予定でしたが、くま川鉄道の被害も大きく、当面の間運行できない状態です。

平井部長は「通学する子どもたちをはじめ毎年たくさんの人に願いごとを書いてもらっていた。豪雨とコロナで受けた地域の被害には目も当てられない。また駅舎に明るい風景が戻ることから願っている」と話していました。

MonthlyTopics

JT 熊本支店社員らが下刈りに汗流す



雨の中黙々と作業をするJT社員ら

コロナウィルスの影響で中止となった「JTの森ゆのまえ」の春の森林保全活動。「県域をまたがない熊本支店だけでも」と社員9人が7月3日に本町を訪れ、潮神社近くの森の下刈りに汗を流しました。今回活動したのは平成28年に同活動でヤマモミジを植えた場所。社員や上球磨森林組合、役場職員ら14人が鎌を使って1時間作業。雨が降る中、1000平方メートルを整備して雑草を刈っていました。



iPhone



android

スマートフォンなら「マチイロ」アプリ「マチイロ」を使うとスマートフォンで紙面が読みやすくなります。QRコードを読み取り簡単な登録を済ませてください。

※アプリのダウンロードや登録は無料、通信料は利用者負担
※閲覧中に広告が表示されますがその内容に本町は一切責任を負いません